

2025年度 西エリアミーティング【開催報告】

「西エリアの地域づくり、新たな一歩：訪問看護の現場から」

日 時：2025年4月24日（木） 19：00～20：30

場 所：すこやかセンター2階 地域ケア研修室

参加者：30人（職種内訳 医師：6人、看護師：14人、セラピスト：5人、ケアマネ：5人）
（機関内訳 診療所・クリニック：6ヶ所 訪問看護ステーション：11ヶ所、
看護小規模多機能：1ヶ所 包括：2ヶ所 居宅：2ヶ所）

司 会：西エリア世話人 竹中真紀（福山医療生活協同組合しあわせ居宅介護支援事務所）

1. 開会挨拶 19:00～19:05

開会挨拶 西エリア長 福田 健 先生（福田内科小児科）

2. 自己紹介 19:05～19:20

・自己紹介とそれぞれの機関毎に特徴等を紹介

精神科経験者が多い、神経難病（パーキンソン）等に強い、役割を持つ取り組みをしている、
小児の訪問が多い、ターミナル訪問が多い、法人に障がいのグループホームを開設したなど特
徴の紹介があった。

3. グループワーク 19:20～20:00

4. グループからの発表 20:00～20:25

進行：福山市医師会地域ケア担当理事 山崎弘貴 先生（城北診療所）

山崎医師から事前アンケート結果から、グループワークのテーマの説明があった後にグ
ループワークを行った。

グループワークのテーマ

① どこにどのような働きをすれば訪問看護の認知度が高まり必要な利用者さんへ適切な利用 につながるか？

- ・訪問看護のサービスの理解を深めるために何が出来るか実例を上げながら伝えていく（医師、
市民、施設等に対して）そのために地域のイベントに参加する、包括支援センター主催の勉強
会などに参加する、集まりがあれば出かけていく。
- ・訪問看護ステーションも増えている中で営業活動を行っていく→病院の地域連携室などに働き
かける。
- ・在宅を理解している医師を選んで、連携し、実践を積みかねる事を地道にやっていく。

② 医療を担当する看護師と介護を担当するケアマネとが連携するに当たって気をつけるべきことは？

- ・医療と介護と違う面で見ている場合が多いので、コミュニケーション、報連相が大事。
- ・ヘルパーと訪問看護など、区切りがありすぎる。もう少し柔軟になればいい。
- ・MCS の活用を行って行く。
- ・料金説明が大事。また利用することでどんな事が出来るのか分かりやすく伝える事が大事。
- ・福祉用具の選定などリハ職の活用をしてほしい。

③ 事業所を超えた情報伝達をスムーズにするために可能な対策は何か？

- ・MCS やローズネットシートの活用。MCS は写真なども送れるので良い。
- ・自宅でノートなどを利用し情報共有をしている。公式ラインやラインワークスも活用。
- ・退院時に病院からの情報が少なく感じる。誰もが取り入れやすい情報ツールがあれば良い。
- ・MCS は在宅医との関係でしか活用がまだ出来ていない。

④ 訪問看護業界で解決すべきと感じている問題点（業界内・多職種間を問わず）

- ・人材育成の課題（安心できるまで同行訪問する、チームワーク作り、給料面）
- ・ターミナルで看取り直前に相談がある事が多い。もっと早くから関わりがあればもっと出来ることがあるのでは？
- ・病院から施設に看取りのために入所する事が増えている。その介入に訪問看護も入るが、本人、家族の思いはどうなのか？と感じる場合もある。
- ・需要と供給のバランスが崩れている
- ・IT 化が進んでいるのに書類が郵送というところが変わっていけばいい。
- ・大きい病院がかかりつけの場合、対応が遅れる事がある。発熱時の対応など事前確認が必要、ルール作り

5. 閉会挨拶

20:25~20:30

西エリア 副エリア長 片岡淳朗 先生（かたおか内科クリニック）

